

オゾン層保護法に基づく 2024年の割当て運用結果等について

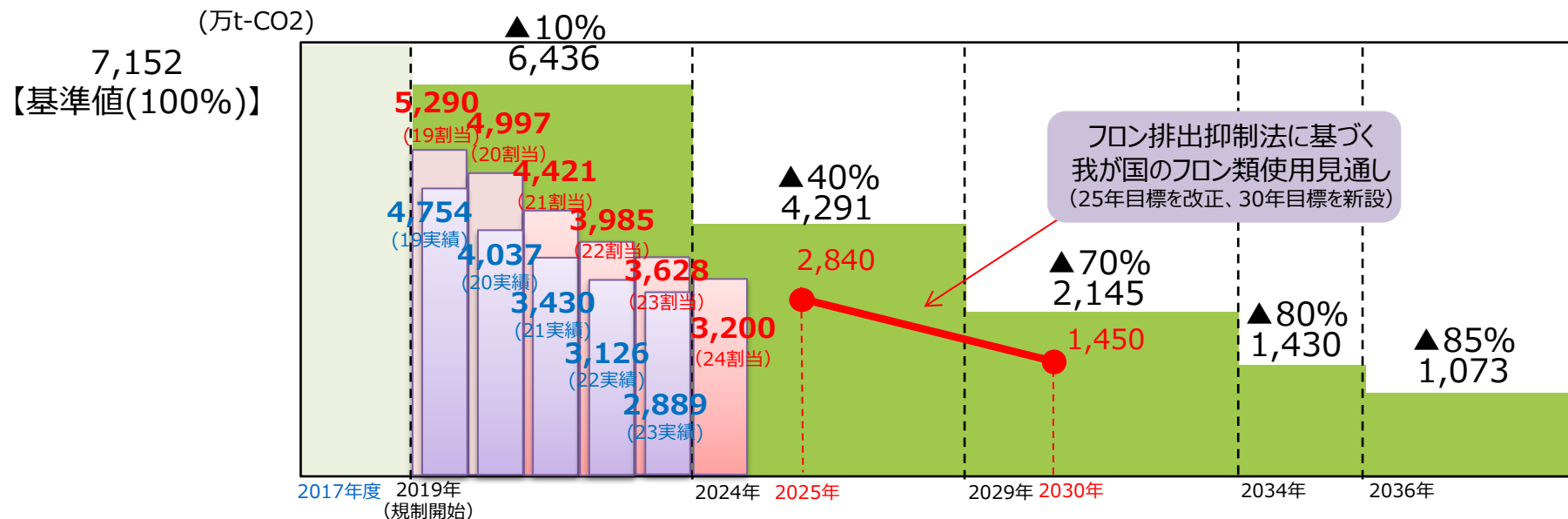
令和 7 年 3 月 25 日

経済産業省 産業保安・安全グループ
化学物質管理課 オゾン層保護等推進室

オゾン層保護法の運用結果

- 2024年消費量の割当ては、**約3,200万t-CO₂**（基本的運用と例外的運用の総計）であり、**日本の基準値4,291万t-CO₂から25%程度の余裕を持って運用**した。
- 基本的運用：約3,158万t-CO₂（製造事業者 8社、輸入事業者 23社）
- 例外的運用：約42万t-CO₂（製造事業者 3社、輸入事業者 9社）

※例外的運用の主な用途は、例外的用途（消火剤、ぜんそく薬噴進剤、原料用途の未反応分（半導体）、試験研究用途等）



※ 基準値：2011-2013年実績の平均値から計算

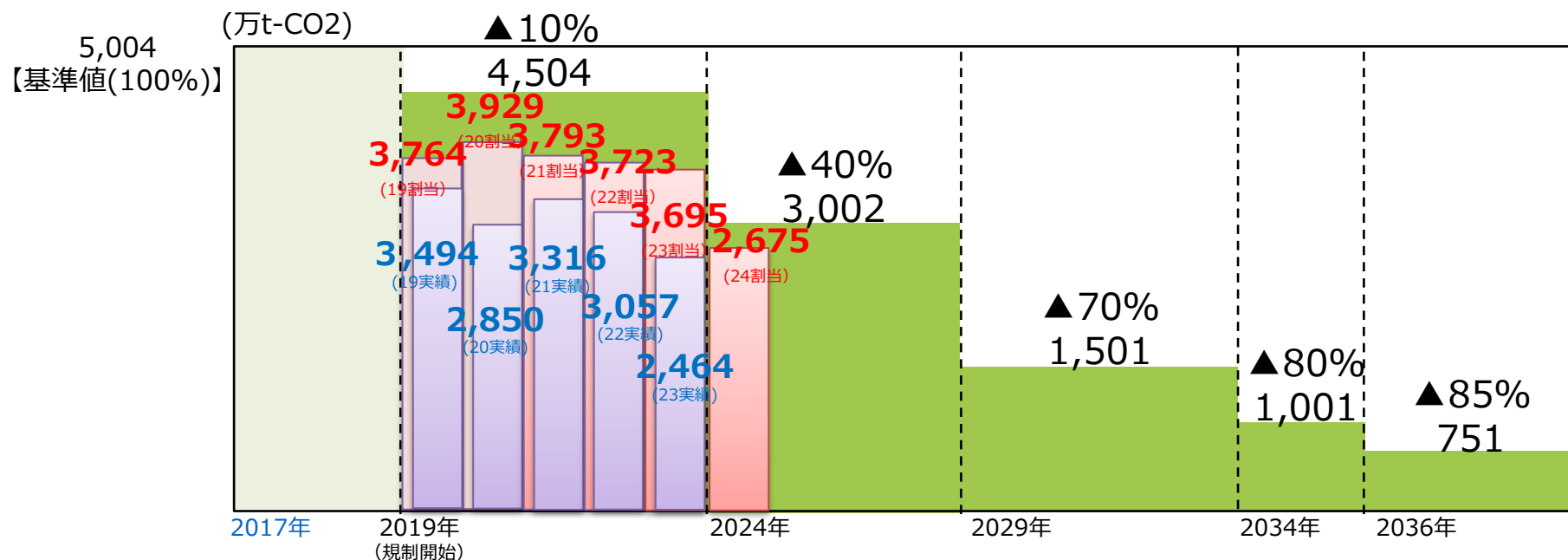
オゾン層保護法の運用結果

- 2024年生産量の割当ては、**約2,675万t-CO₂**（基本的運用と例外的運用の総計）であり、**日本の基準値3,002万t-CO₂から11%程度の余裕をもって運用**した。

- 基本的運用：約2,661万t-CO₂（製造事業者 8社）

- 例外的運用：約14万t-CO₂（製造事業者 3社）

※例外的運用の主な用途は、例外的用途（消火剤、ぜんそく薬噴進剤、原料用途の未反応分（半導体）、試験研究用途等）



※ 基準値：2011-2013年実績の平均値から計算

(参考) 生産量・輸出量・輸入量・消費量の実績の内訳

- 令和5規制年度（令和5年1月1日～令和5年12月31日）の特定物質及び特定物質代替物質の生産量、輸出量、輸入量、消費量の実績の内訳は以下のとおり。

特定物質	生産量	輸出量	輸入量	(ODPトン)
				消費量
A I（特定フロン）	0	0	0	0
A II（特定ハロン）	0	0	0	0
B I（その他CFC）	0	0	0	0
B II（四塩化炭素）	0	0	0	0
B III（1,1,1-トリクロロエタン）	0	0	0	0
C I（HCFC）	0	0	0	0
C II（HBFC）	0	0	0	0
C III（ブロモクロロメタン）	0	0	0	0
E I（臭化メチル）	0	0	0	0

特定物質代替物質	生産量	輸出量	輸入量	(GWPトン)
				消費量
F I（HFC）	19,878,490	13,513,719	22,405,839	28,770,610
F II（HFC-23）	4,766,038	4,810,339	160,773	116,472
合計	24,644,528	18,324,058	22,566,612	28,887,082

※ ODP：オゾン破壊係数（Ozone Depletion Potential）、GWP：地球温暖化係数（Global Warming Potential）

(参考) 平均販売価格の推移

- 2020年7月以降の平均販売価格（末端価格）の推移全体を見ると、R-134aを除き、急激な高騰は見られないが、今後もモニタリングを継続的に実施していく予定。
- R-32は比較的安定的に推移。
- 混合冷媒（R-410A、R-404A、R-407C）の価格は比較的安定的に推移。

冷媒販売価格指数（2020年7月を1.0としたときの平均販売価格の推移）

